

押元貝塚

千葉市の遺跡を歩く会

押元貝塚は都川の中流左岸に位置する縄文中期～後期の貝塚です。5000年前～3000年前には都川や仁戸名川の沿岸に、2～3kmの間隔で大型貝塚が分布します。千葉市が最も繁栄した縄文時代の生活を押元貝塚で想像しましょう。

1. 押元貝塚（縄文中期・後期）

- 直径約 100mの馬蹄形貝塚。
- 標高 18～24mの台地から斜面に位置する。
- 加曽利E式土器、堀之内式土器、加曽利B式土器が出土することから、縄文中期～後期の遺跡とされている。（弥生式土器、土師器、須恵器も出土していることから、古墳時代まで生活が営まれた土地であることがわかる）
- 貝層はイボキサゴ、ハマグリが主体。
- 大宮台西を流れる小川が作った支谷の対岸（東）の舌状台地にある滝ノ谷遺跡では稲荷台式土器と考えられる撚糸文土器が出土していることから、この地には縄文時代で最も温暖であった縄文早期に人々が暮らしていたことがわかる。

以 上